Kawara-Ban

名大病院 NEWS かわらばん

2026.1 139号

CONTENTS

① ・脳卒中患者さんへの切れ目のない支援を実現へ。
愛知県の「脳卒中拠点」に名大病院が採択されました。
・新年のご挨拶
② ・採血室の混雑状況が一目でわかる！
「Smart Lounge」の運用が始まりました
・健康講座「感染症予防とワクチン接種について」
・病院からのお知らせ
・ナディック通信
・令和7年度鶴舞公開講座を開催

名古屋大学医学部附属病院

理　念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

基本方針 ● 1. 安全かつ高度な医療を提供します。　2. 優れた医療人を養成します。
3. 次代を担う新しい医療を開拓します。　4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65番地　TEL 052-741-2111（代表）
https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーがご覧いただけます

特集 TOPICS ① 脳卒中患者さんへの切れ目のない支援を実現へ。愛知県の「脳卒中拠点」に名大病院が採択されました。

2025年、名大病院は、厚生労働省が進める「脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業」で、愛知県の「脳卒中拠点」に採択されました。その取り組みや今後の展望について、お話を伺いました。

地域連携・患者相談センター脳卒中総合支援部門の
齋藤 教授（部門長）

愛知県の「脳卒中拠点」として支援活動を開始

脳卒中や心筋梗塞などの循環器疾患は、命に関わる恐ろしい病気です。回復後も後遺症により介護が必要となるケースも多く、リハビリテーションや就学・就労支援、福祉サービスの利用支援など継続的な情報提供やサポートが欠かせません。これらの支援を強化するため、国は各都道府県に循環器疾患の治療・情報発信拠点となる脳卒中・心臓病等総合支援センターの設置を進めています。

２０２５年、名大病院は、愛知県の脳卒中・心臓病等総合支援センターの「脳卒中拠点」として、厚生労働省から採択されました。「心臓病拠点」は藤田医科大学病院が担い、２つの病院が連携して生涯支援型サポートサービスを提供していきます。名大病院では拠点採択を機に、地域連携・患者相談センターに「脳卒中総合支援部門」を新設し、活動を本格化させています。

予防から治療、回復まで一貫した支援体制を構築

「脳卒中総合支援部門」は、県内の大学病院や国立長寿医療研究センター、あいち小児保健医療総合センター、そして地域のクリニックやリハビリテーション施設など、愛知県の医療機関と連携する総合相談支援窓口として活動しています。ソーシャルワーカーを中心に、地域の医療機関からの相談に応じるとともに、医師、看護師、リハビリ専門職など多職種連携の強化に向けた体制整備を進めています。

これまで脳卒中患者さんへの医療提供は急性期、回復期、維持期と段階ごとに行われていました。しかし、本部門を核に医療機関が横に連携することで、患者さんの状態や経過に関する情報が共有され、分断されていた支援が一本化されます。これにより急性期での救命にとどまらず、回復後の生活支援まで視野に入れた、一貫した支援が可能になります。

地域連携・患者相談センターの種井 病院准教授

情報の一元管理により、生涯にわたりスムーズなケアを提供

将来は各病院のカルテを共有し、情報の一元管理を進めることが目標です。デジタル化により情報共有が進めば、現在アナログで行われている患者さんの転院先探しが改善され、転院がスムーズになると同時に、救急搬送時の受け入れ先を迅速に決定できるようになります。加えて、復学・復職した脳卒中患者さんの人数を正確に把握することで、具体的な数値目標を設定し、より質の高い医療を目指した取り組みにつなげることもできるでしょう。

脳卒中を発症すると、患者さんご本人のみならず、ご家族も長期にわたり心配を抱えることになります。本部門では、そのような心配を少しでも軽減できるように医療体制を変革し、患者さんを生涯にわたって支援していきたいと考えています。自分の家族が脳卒中になった時に、「この体制があって本当に良かった」と思えるシステムを構築すべく、前進していきます。

新年のご挨拶

病院長　丸山　彰一

新しい一年の始まりにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

当院では昨年、大規模な病床再編を行い、入院受け入れ体制の拡充や救急医療の充実、小児循環器医療の発展などに取り組んでまいりました。また、肺移植医療を開始し、核酸医薬やCAR-T細胞治療など、次代を見据えた新たな医療にも挑戦しています。あわせて、「最後の砦」として、他の病院で治療が難しい患者さんの受け入れも続けています。

一方で、医療の高度化や物価高騰により、全国の約７割の病院が赤字経営に陥っており、名大病院も例外ではありません。それでも、地域の皆様の厚い信頼を心の支えに、職員一同、当院の使命を果たすべく日々献身的に努力を重ねています。

本年も「診療・教育・研究を通じて社会に貢献します」という理念のもと、皆様に安心と未来への希望を届ける病院であり続けたいと願っております。皆様にとって健やかで穏やかな一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

看護部長　藤井　晃子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

当院は、地域の皆さまに支えられながら、高度な医療と安心して受けられる心のこもった看護をお届けしてまいりました。看護部は、患者さんとご家族に最も近い存在として、その思いや日々の暮らしに寄り添いながら、医療チームとともに最善を尽くしております。

現在、日本は高齢化や人手不足といった大きな変化に直面しています。それでも私たちは、技術の進歩や仲間とのつながりを力に変え、どんな時も「人を大切にする看護」を守り抜きたいと考えています。そしてこれからも、皆さまと共に未来を築き、安心して暮らせる社会を支える存在でありたいと願っております。

本年も変わらぬ温かいご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

すべての皆さまにとりまして、本年がすばらしい一年となりますよう祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

事務部長　竹本　浩伸

新年、明けましておめでとうございます。

テレビなどでご覧になられた方もいらっしゃるかと思いますが、近年の物価高騰等は大学病院の経営に大きな影響を与えております。当院も決して例外ではありませんが、当院を受診してくださる皆さまに、今後も引き続き、安全で質の高い医療を提供すべく、職員一同、取り組んでまいります。

また、当院では、昨年より、AI（artificial intelligence: 人工知能）の活用を含む医療DXの推進に向けた検討を開始しました。これにより、皆さまにとってより快適な病院を構築してまいります。

なお、昨年７月以降、外来棟吹抜部で天井耐震補強工事を行っており、現時点の計画では工期は本年３月末までを予定しております。皆さまにはそれまで長期にわたりご迷惑とご不便をお掛けしますが、当院の取組に、何卒ご理解と御協力を賜りますよう、お願いいたします。

採血室の混雑状況が一目でわかる！「Smart Lounge」の運用が始まりました

当院では、令和7年10月1日（水）より、中央採血室の待ち状況をスマートフォンやパソコンから確認できる「Smart Lounge」の運用を開始しました。

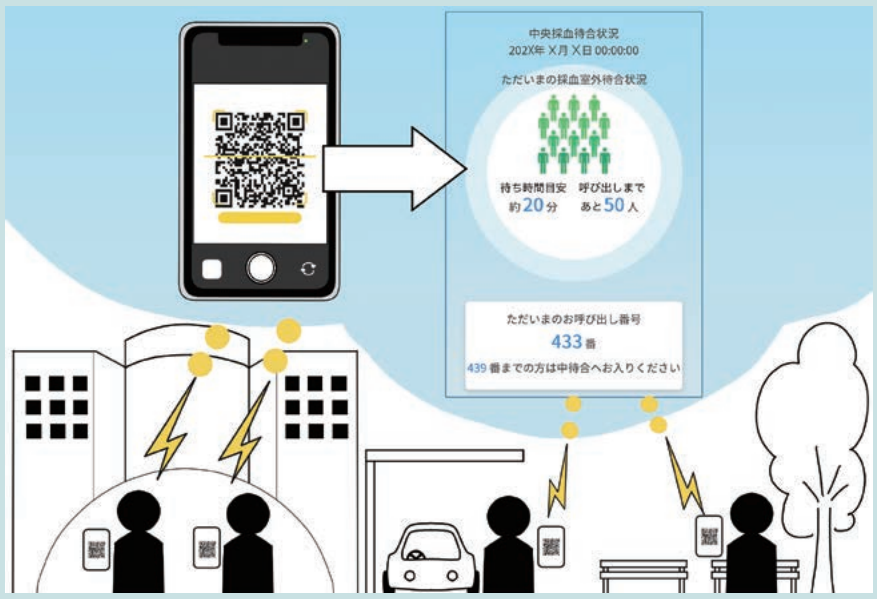
採血室の受付後に発行される整理券の QR コードを読み込むだけで、現在の呼び出し番号や外待合の混雑状況をリアルタイムで確認できるシステムです。

【主な機能】

- 整理券の QR コードから、現在の呼び出し番号と混雑状況を確認できます。
- 病院内外どこからでもアクセス可能。お好きな場所でお待ちいただけます。
- 中央採血室からのお知らせや情報を確認できます。
- 患者さん向けアンケートを実施しております。

待ち時間のストレスを軽減し、より快適にご利用いただけるよう努めてまいります。

皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



健康講座

感染症予防とワクチン接種について

中央感染制御部長　八木　哲也

寒くなってまた、インフルエンザや COVID-19が流行する時期になりました。皆さん体調管理は十分でしょうか？

体に配慮した食事や適度な運動など日々の健康管理も大切ですが、ワクチン接種で防げる感染症を予防することも重要です。名大病院中央感染制御部では、毎週月曜日の午前に、予防接種外来を開設しています。当院に通院中のさまざまな基礎疾患をお持ちの患者さんや妊婦さんへのワクチン接種を推進しています。インフルエンザワクチンや COVID-19に対するワクチンのみならず、最近使用可能となった帯状疱疹ワクチン、RS ウイルスワクチン、新しい肺炎球菌ワクチンなども接種可能です。

特に心臓や肺、腎臓に基礎疾患のある方、病気や治療で免疫不全がある患者さんには、強く接種を推奨します。予約は、当院で受診されている主治医にご相談ください。ただし、帯状疱疹ワクチンに関しては、自治体によって独自の助成制度が設けられています。当院で接種される際には、自治体の補助が受けられない場合がありますので、詳細は各自治体のホームページ等でご確認いただきますようお願いします。

▶予防接種外来の様子

病院からのお知らせ

提案書からの改善報告

当院では、患者さんが利用する設備や機器などについて、日々の点検や定期的な更新を行っています。加えて、患者さんへのサービス・アメニティ等の満足度向上を目指し、患者満足度委員会において、院内に設置してある提案箱へ投函された提案書のご意見から、サービス改善策を検討し実施しています。

現在、１ヶ月あたり約50件のご提案をいただいております。提案書は、回収次第、現場で対応を進めるとともに、その後開催される委員会にて１件ずつ検討することで、院内のサービス向上に努めています。

サービス改善における主な対応については、外来棟１階中央待合ホールに設置されているモニターへ掲示しています。

〈2025年度上半期　改善実施事例〉

歩きスマホにより危険を感じる場面があったとのご意見を受け、歩きスマホに関する注意喚起の案内を院内各所に掲示しました。

Nagoya Disease Information Center

ナディック通信

ナディックからのお知らせ

患者情報センター（広場ナディック）では患者さん自身が医療に関する情報収集ができるよう、一般的な医学書やパンフレットの閲覧、DVD の視聴等ができます。

〈利用時間〉平日10:00～13:00（休日祝日年末年始を除く）

＊入院、外来を問わず、すべての患者さんにご利用いただけます。

「名大患者サロン」では、参加者同士の交流だけでなく、情報共有や病気とうまく付き合うための体験型のプログラムも実施しています。ぜひ、お気軽にご参加ください。

【名大患者サロン　開催一覧（開催済・予定）】

開催時間13:30～14:30

開催日	テーマ
2025年12月11日(木)	【肝臓病教室】定期的な検査の必要性と腹部超音波検査について
2026年2月17日(火)	【肝臓病教室】最新治療と医療費助成制度について

（問い合わせ先　地域連携・患者相談センター　052-744-2663）

令和７年度鶴舞公開講座を開催

令和７年11月29日(土)に、令和７年度名古屋大学鶴舞公開講座を開催しました。同講座は、平成17年度から、医学部と附属病院が共催で、年１回開催しているもので、社会的に関心が高く、日常で役立つ話題をテーマとしています。

今年度は、「自分が病気になったら・家族が病気になったら～名大病院のいまとミライ～」と題して、４つの講演を行いました。

いずれの講演も、先生方がわかりやすく説明し、和やかな雰囲気の中、受講者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。当日は、会場参加･オンライン視聴合わせて、10代～90代の幅広い年齢層の約90名が受講しました。受講者からは「身近なテーマを分かりやすく説明していただき、とても参考になった」「今後の健康管理について考える良いきっかけになった」という感想が寄せられました。

No.139　医学部･医学系研究科総務課
TEL 052-741-2111（代表）
発行日　2026年1月1日

名大病院は、日本の国立大学病院では初めてのJCI認証施設です。

かわらばん HPのご案内

「かわらばん」は、名大病院ホームページでもご覧いただけます。
バックナンバーや災害医療支援活動の状況、医事統計などを掲載しています。
ホームページアドレス　https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/（トップページ⇒病院概要⇒広報）